

広島国際映画祭上映作品のメキシコ人映画監督を招いて会員交流会を開催しました

11月24日（金）、当親善協会会員並びに関係者31名が参加して「メキシコ人映画監督を囲む会員交流会」を広島市中区大手町のイタリア料理“アル・マンドリーノ”を会場に開催しました。

広島国際映画祭は11月23日（祝）から26日（日）の4日間、NTTクレドホールや広島市映像文化ライブラリー、横川シネマの3会場で今年も開催され、今回メキシコからは2019年に続いて、2度目の出品となるリカルド・ソト監督初の長編作“El canto de las moscas”日本語の題名「静寂の羽音」が上映されました。

作品は1915年、メキシコ革命の混乱期に農園で身を隠しながら父親の帰りを待つ姉妹を描いたものになっています。今後、また上映の機会がありましたら会員皆様には是非鑑賞いただきたい作品です。

交流会では、最初に菖蒲田会長にご挨拶いただき、森藤理事による乾杯の発声で始まりました。当日は、会の半ばで、リカルド・ソト監督に上映作品への思いなどお話をいただき、また今回は和とラテン音楽の融合“Walatino”（ワラティーノ）の演奏で交流会を盛り上げていただきました。



上映作品への思いを語るリカルド・ソト監督



“Walatino”の演奏で交流会は盛り上がりました



交流会の最後に全員で記念撮影